

テーマ：北方領土（実践校）

上川管内 比布町立比布中学校

■本実践のポイント（概要）

・ふるさとに対する愛着や誇りを育むため、事前事後の学習において北方領土の語り部を講師として招聘することにより、北方領土問題への関心を高め、理解を深める機会とし、多面的・多角的に考える学習活動を展開しました。

■ふるさと教育の実践内容

①取組の様子

（1）事前学習

第1学年社会科「地理的分野 A 世界と日本の地域構成」の単元の導入において、「領域の範囲や変化とその特色」の学習では、外部講師による講話を通して、我が国の領域をめぐる問題について理解を深めることなど、学習の見通しをもたせたことにより、北方領土に関する学習への興味・関心を高めることができました。

（2）元島民の外部講師による講話

北方領土の自然や産業などについて話を聞いたり、写真を見たりして講師が暮らしていた頃の様子を知ることができました。

北方領土が占拠された際には、日本人がどのような扱いを受け、どんな生活を送っていたのかを具体的に聞くことができ、当時の人々の苦しみを知ることができました。



【元島民による講話の様子】

（3）事後学習

第1学年「地理的分野 B 世界の様々な地域（2）世界の諸地域」における学習において、北方領土に関する学習と関連させるなど、単元構成を工夫しました。

②生徒の感想等

・講師が70年間も自分の家に帰ることができなかったこと、黒パンや乾パン、塩漬けの魚などしか食べることができなかったことを聞き、当時の暮らしの過酷さを知りました。

■取組の成果（○）と課題（●）

- 元島民の語り部を外部講師としたことにより、北方領土に関する学習への関心を高め、より一層主体的に学習に取り組むことができました。
- 事後の生徒アンケートでは、「北方領土の自然や歴史、領土の返還についてもっと調べたいと思うか」という項目において、「もっと調べたい」と回答した生徒の割合が40%から50%に増加しました。
- ふるさとに対する愛着と誇りをより一層育むことができるよう、教育課程を編成し、教科等横断的にふるさと教育を行っていく必要があります。